

## ダイズにおけるフタスジヒメハムシの発生活長と エチルチオメトン粒剤による防除

古川農業試験場

### 1 取り上げた理由

ダイズの主要害虫であるフタスジヒメハムシは、ダイズの莢を加害することで間接的に子実被害を与え、子実の品質低下をもたらすことで近年問題となっている。しかし、本種の発生については明らかにされておらず、効果的な防除法が確立されていない。そこで、本種の発生活長を明らかにし、それに基づいてエチルチオメトン粒剤による播種溝処理の効果について検討したところ、高い防除効果が得られたので参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) 本県におけるフタスジヒメハムシ成虫は、6月上旬～中旬，7月下旬～8月上旬，8月下旬～9月上旬，10月上旬の年3～4回発生する。年次により発生時期や世代数が異なる（図1）。
- 2) 越冬世代成虫のダイズ圃場への侵入後は移動性が小さいため（図3），エチルチオメトン粒剤の播種溝処理の成虫抑制効果は長期にわたって持続し，被害粒の防除効果が高い（図2～5）。

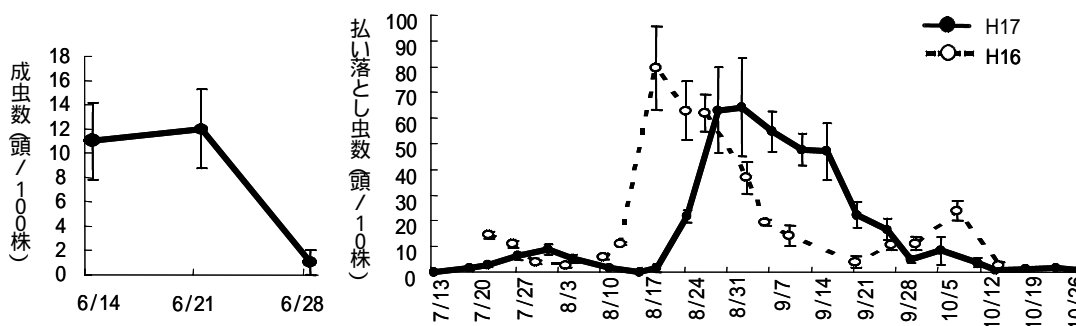


図1 フタスジヒメハムシの発生活長(古川農試)  
注)左図は越冬世代，右図は第1世代以降における発生活長(図中のバーは標準誤差を示す)

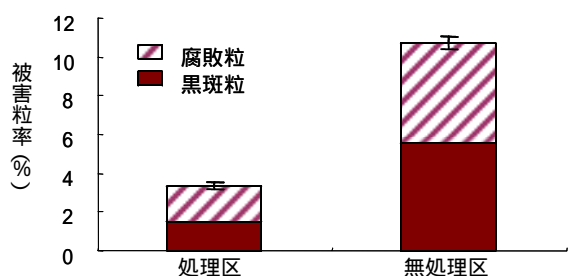


図2 エチルチオメトン粒剤のフタスジヒメハムシに対する防除効果  
注)図中のバーは標準誤差を示す

### 3 利活用の留意点

- 1) エチルチオメトン粒剤のダイズ播種時処理では，ベンタゾン液剤を使用すると薬害を強く出すので，ベンタゾン液剤は使用しない。
- 2) エチルチオメトン粒剤はジャガイモヒゲナガアブラムシにおいても防除効果がある（図6）。
- 3) エチルチオメトン粒剤は，ダイズ播種機の肥料ホッパー装置を調整することにより播種溝施用が可能である。また，ダイズ播種薬剤同時散布機も販売されている。

(問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108)

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

大規模水田輪作ほ場におけるダイズの総合的有害生物管理 (IPM) のための主要病害虫制御技術の開発：平成16～20年

##### 2) 参考データ

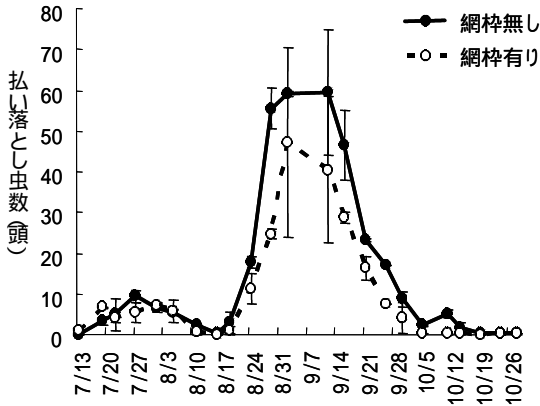


図3 ダイズ圃場外からのフタスジヒメハムシの侵入量

注1) 網柵: フタスジヒメハムシ越冬世代の侵入後, 第1世代以降の侵入量を調査するため7/4に設置した  
注2) 図中のバーは標準誤差を示す

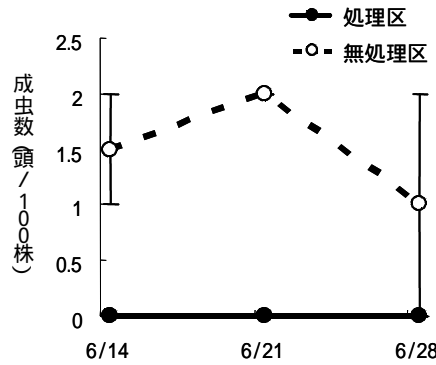


図4 越冬世代成虫に対するエチルチオトロン粒剤の効果

注) 図中のバーは標準誤差を示す

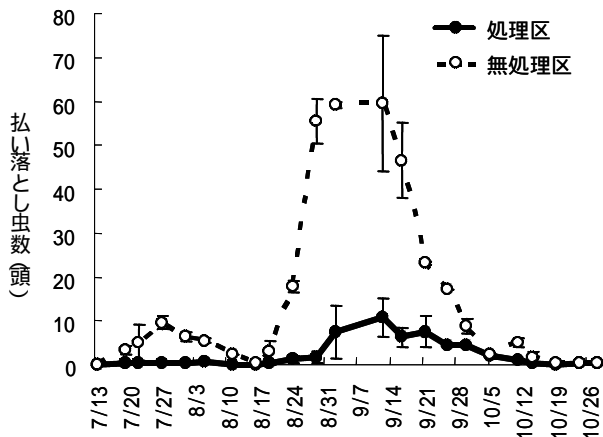


図5 第1世代成虫以降の発生量に対するエチルチオトロン粒剤の効果

注) 図中のバーは標準誤差を示す

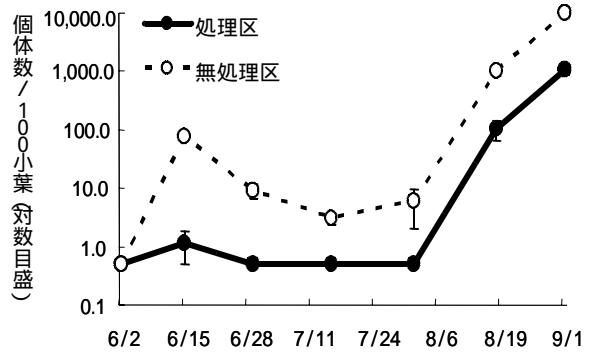


図6 ジャガイモヒゲナガアブラムシに対するエチルチオトロン粒剤の効果

注1) 100小葉当たりの個体数 + 0.5で示した  
注2) 図中のバーは、標準誤差を示す

表1 エチルチオトロン粒剤の使用法 (平成18年2月20日現在)

作物名	適用病害虫	使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
ダイズ	フタスジヒメハムシ	4kg/10a	播溝散布	播種時	1回
	アブラムシ類	3~6kg/10a	株元散布又は播溝散布	収穫60日前まで	1回
	ハダニ類	3~6kg/10a	株元散布又は播溝散布	収穫60日前まで	1回

##### 3) 発表論文等

第59回北日本病害虫研究会大会にて発表